

## 専門家招き「決算報告・安全会議」開催 イワタ輸送センター

(株)イワタ輸送センター(天野恭子社長、静岡県袋井市)は20日、「第44期決算報告・安全会議」を開催した。



決算報告を行う天野社長

天野社長は、44期の決算報告で「『働きやすい環境を整えれば売り上げは後からついてくる』という考えのもと、効率的な動線の仕組みづくり、安全な職場品質、心豊かな社員の育成、の3つをポイントに環境整備に取り組んだ結果、新規の取引が運送部門で31社、倉庫部門で11社増加した」と説明。そして45期の方針として、短時間労働を積極的に推し進めるほか、“健康経営”の実践として心と体のケアをしていく。さらに、「倉庫の環境整備をして新規顧客の獲得を努める」、「46期を見据えた営業活動を開始する」、「グリーン経営の認証取得を目指す」といった方針も打ち出した。

新入社員挨拶では、吉田直也さん、西尾季里子さんが入社の際の動機や抱負を語った。また、各リーダー挨拶では、藤田光人さん、中川智史さん、水野賢也さん、古橋ひとみさん、吉田直也さんが、それぞれ1年間の反省と次年度に向けた決意を述べた。

安全会議では、西濃通運(株)会長の柳迫茂矢氏が「安全実話」と題して講演。過去に起きた自社ドライバーの死亡事故を赤裸々に告白。遺族からお父さんを返してと泣かれたことやショックで3日間寝られなかった辛い経験から、一定頻度で事故を起こす乗務員をトラックから降ろすこと

を決めた。「事故は家庭崩壊にもつながる。厳しいようだが命と引き換えにはできない。皆さんは自分と家族を守るため安全運転を心掛けてほしい」と訴えた。

次に、(株)データ・テックの杉山建氏が、イワタ輸送センターが導入したSR(セーフティ・レコーダー)の2か月間にわたるドライバー別データ推移を見ながら運転の改善傾向や注意点などを共有。「平均速度や最高速度を抑えた運転となり、全体的に得点がアップし、速度を抑えた運転になった。また、車間距離を空けるなど危険を予測した運転になったり急ブレーキの回数が減ったことにより燃費がアップした」と導入後の効果を説明。また、「相手の良いところを褒めてほしい。そうすれば自身も褒められるようになり、会社全体がよくなっていく」と呼びかけた。

そして、事故防止講習では、(株)ディ・クリエイト代表取締役の上西一美氏が、①合流地点の自転車などの接触②交差点での事故③サンキュー事故④追突事故⑤後方不注意による事故⑥バック事故、についてドライブレコーダーの映像を活用しながら、これらの特徴的な事故を起こす背景や事故を起こしやすい人の特徴、そしてその予防策について詳しく解説。そして「自動車の運転の基本は、認知→判断→操作。しかし、事故を起こしやすい人は、操作→判断→認知のように順番が逆になったり同時進行してしまう傾向が強い。自身の性格・性質を知ったうえで運転することが事故防止には重要だ」と述べた。

表彰式では、今回MVP社員は該当者なしだった。最優秀リーダー賞には古橋ひとみさんが受賞した。最後にこの日誕生日を迎えた天野社長にサプライズとして、社員からねぎらいの言葉とプレゼントが贈られた。